

## 引越はオンラインでスタート!

下記いずれかをお持ちの方は、マイナポータルを通じてオンラインで転出届ができるようになり、町役場への来庁が原則不要になりました。

- ① 電子証明書が有効なマイナンバーカード
- ② スマートフォン用電子証明書搭載サービスに対応した端末

### 【注意】

- ① マイナンバーカードに設定した暗証番号の入力が必要です。
  - ② 世帯員の引越にも利用可能です。
  - ③ 国内の引越のみに利用できます。
  - ④ 転入届は、14日以内に市町村役場窓口での手続きが必要です。
- ※ 詳細は、マイナポータル及びデジタル庁のHPをご覧ください。



【お問い合わせ】 町民課 住民年金係 ☎098-945-5012

## 「マイナンバーカード」の受け取りに関するお知らせ

◎「マイナンバーカード」の申請を行った方には、約1か月後に役場から「マイナンバーカード交付通知書（はがき）（転送不要郵便）を送付します。

ご自宅に交付通知書（はがき）が届きましたら、本人が来庁し、受け取りをお願いします。

受け取り可能な時間帯は以下のとおりです。受け取り手続きは、約30分かかります。

平日は混みあうこともありますので、お時間に余裕をもってお越しください。

- 平日（予約不要）9:00～16:30（11:30～13:00を除く）
- 夜間（要予約）3/19（火）・3/21（木）17:30～19:30

※マイナンバーカードの受け取りに必要な持ち物（本人確認書類等）は、はがき裏面やホームページにてご確認ください。

※病気・障がい、その他やむを得ない理由により、代理受け取りを希望する場合は、要件や必要書類等の確認がありますので、事前にお電話にてご相談ください。

【お問い合わせ】 町民課 住民年金係 ☎098-945-5012

## 手話奉仕員養成講座受講生募集

《趣 旨》 西原町・与那原町では、合同で手話奉仕員養成講座（入門編・基礎編）を開催いたします。聴覚障がい者の生活や福祉制度について理解を深め、手話で日常会話ができる事を目的に手話奉仕員を養成します。興味関心のある方の申し込みをお待ちしております。

《主 催》 西原町・与那原町（2町合同開催です）

《期 間》 令和6年5月9日（木）～令和7年2月20日（木） 毎週木曜日 夜7時～9時 全40回

《場 所》 前半（西原町役場内会議室：5月9日～9月26日）

後半（与那原町役場内会議室：10月3日～令和7年2月20日）

《定 員》 20名（西原町10名・与那原町10名） ※定員超過の場合は選考となります

《対象者》 手話学習初心者

- 《受講条件》
- ・西原町または与那原町内に在住、在学、在勤の方。
  - ・2年間継続して受講が可能な方（基礎編は令和7年度に開講予定）。
  - ・講座（入門編・基礎編）修了後、継続して沖縄県主催の手話通訳者養成講座を受講する意志のある方。
  - ・講座修了後、西原町または与那原町に手話奉仕員として登録し、学習会参加に意欲のある方

《受講料》 無料（但し、テキスト代等（¥6,000程度は受講生負担となります）

《備 考》 ・出席率の実技80%、講義100%の方に修了証書を交付します。

・手話奉仕員登録は、入門編1年・基礎編1年を修了した方を対象に行います。

《申込締切》 令和6年4月5日（金）までにお申し込みください。

※指定申込用紙があります。福祉課障がい支援係窓口にてお申込みください。

《必要書類》 顔写真付きの身分証明書（免許証等）

《連絡先》 福祉部 福祉課 障がい支援係 ☎098-945-4791



## 大谷グローブ届いたぜ!

メジャーリーグで活躍する大谷翔平選手からグローブが届きました。このグローブは大谷選手が全国の小学校に寄贈してくれたものです。

贈られたグローブは右利き用2個、左利き用1個の組み合わせとなっていて、大谷選手のサインが印字されています。3つのグローブは1月12日（金）に町内4つの小学校に届きました。西原東小学校では、多くの生徒児童がグローブにふれるために1週間ごとに6年生から順にグローブを使えるようにしています。

3年生の体育の授業では、大谷グローブを使っている野球の授業が行われました。こどもたちは目を輝かせながら大谷グローブを手に取り、キャッチボールを楽しみました。

こどもたちからは「はじめてグローブさわった」「野球たのしい」「大谷さんマジすげー」などの声が上がりました。

この日の授業の約半数の児童がこれまでグローブにさわったことがなく、はじめての手にしたグローブが大谷グローブとなりました。

大谷選手は「このグローブが、私たちの次の世代に夢を与え、勇気づけるためのシンボルとなることを望んでいます」とメッセージを贈っています。



西原町からも大谷選手のように世界に羽ばたく人が出てきますように



## 西原南小学校 地域ぐるみで校内美化作業 ～地域のこどもを地域で育てる～

2/17（土）に西原南小学校でコミュニティ・スクールの基盤づくりの一環として校内美化作業が行われました。

コミュニティ・スクールとは、学校と地域住民が協力し、こどもたちのより良い環境づくりに取り組む「地域とともにある学校」を目指すための仕組みです。どういうこどもたちを育てたいのか？ どういう地域をつくるのか？ について地域の声を活かし、地域とこどもたちの将来を考えた町づくりを進めていく取組です。

南小の大きくなりすぎた樹木の伐採は長年の課題でありましたが、西原町電設会の協力があり今回の美化作業が実現しました。作業には児童生徒と保護者、教職員のみならず、日ごろから南小のグラウンドを利用している町内4校のスポーツ少年団も駆けつけ、合計171名が参加しました。

西原電設会からバケット車やユニット車、ユンボ、2トントラックなど合計10台の作業車両を導入していただき大規模な伐採作業がスムーズに行えました。運動場フェンス沿いに並ぶモモタマナと中庭をおおいがぶさるガジュマルの木がバツサリと切られ、校内は見違えるほどスッキリしました。

参加したこどもたちからは「グラウンドが広く感じる」「キツかったけど、めっちゃキレイになって良かった」という声がありました。榮野川活校長先生は「こどもたちに自分たちの力で学校がキレイになる姿を実感してもらいたい。協力していただいた地域住民と地域企業のみなさんに感謝いたします」と話しました。

## 文化財

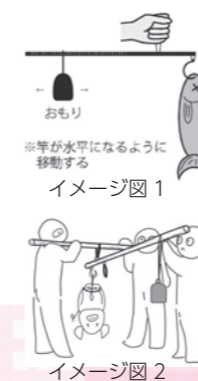
### 竿秤を知っていますか。

現在、ものの重さをはかる時、皆さんはどのような器具を使っていますか。最近人気のあった某ドラマの主役のように、自分の手ではかれないという方ももしかしたらいるかも知れませんが、ほとんどの方は、目盛りのある上皿はかりや、ピットと数字が出る電子はかりを使っていると思います。

このようなはかりが出る前、私たちの先輩方は、「竿秤」を使っていました。方言で「ハカイ」といい、葉や織物糸のための小型のものから米俵や家畜用の大型のものまでありました。大型の竿秤は、「チンドー」、地域によっては「テットー」とも呼ばれています。

竿には目盛りが書かれ、前部には鉤（ヒツカキヤ）がついています。反対側に分銅（ウブシ）を下げて、水平になった場所で計量します。（イメージ図1）

お問い合わせ文化財課 文化財係 ☎944-4998



イメージ図1 ※竿が水平になるように移動する



イメージ図2

に保つようにはかるので、時には、竿の傾きによる売り手と買い手のかけひきもあつたようです。

本町文化財係でも近年数種類の竿秤の寄贈を頂いています。小型のものから、二〇〇斤（二〇kg）や二五〇kgと書かれた分銅を持つ竿秤などです。これらは、実際に市場などで野菜や豚、魚などの出荷の際に重さをはかるために使用されていたものです。

竿秤は、毎年本町文化財係が開催している新収蔵品展で、何度か展示していますが、今年は大抵二五〇kgの竿秤を展示予定です。竿秤自体の歴史は江戸時代頃まで遡るそうです。先人たちの知恵が詰め込まれた秤を、ご覧ください。収蔵品展の詳細は本広報紙の生涯学習だよりに掲載しています。